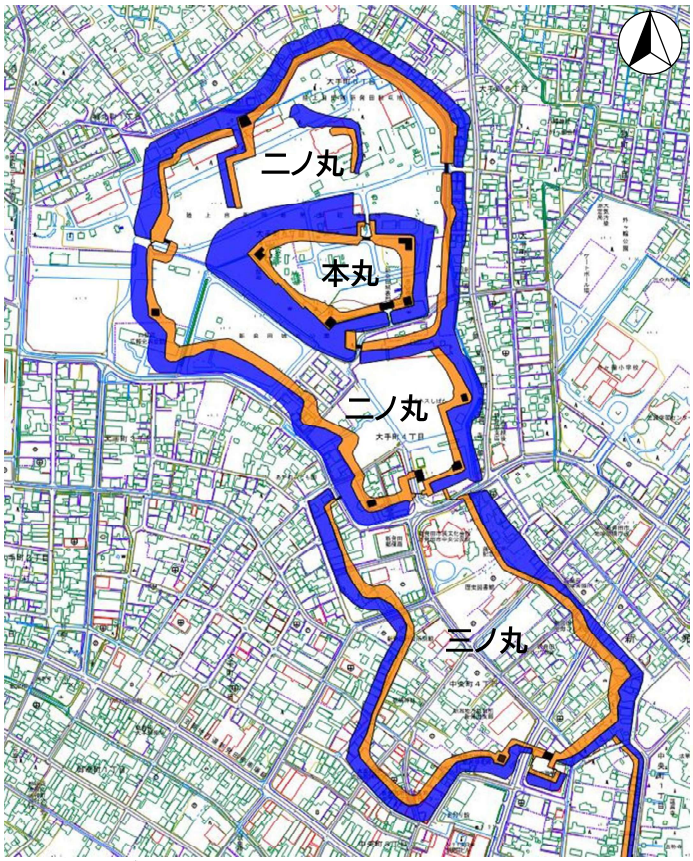
1.城跡等の総括的事項					
名称(遺跡名)	新発田城跡	都道府県	新潟県	市町村	新発田市
文化財種別	市指定史跡（本丸石垣部分）	指定年月日	平成14年1月7日	指定面積	6995.33㎡
その他の指定	国指定重要文化財（表門・旧二の丸隅櫓）	その他の法規制	都市計画公園（新発田城址公園） 新発田市景観計画（歴史景観エリア（新発田城跡周辺区域））		
保存活用計画	☐有 ☑無	整備基本計画	☐有 ☑無		
調査担当部署	市教育委員会　文化行政課	整備担当部署	市教育委員会　文化行政課		
管理担当部署	市教育委員会　文化行政課 市　維持管理課	指定管理者	無		
委員会設置状況	新発田城石垣検討会委員会（平成30年～）	その他計画	新発田市文化財保存活用地域計画（令和5年7月認定） 新発田城土橋門復元整備計画（令和7年３月）		
城郭等の概要	加治川旧扇状地に築かれた平城で、構えは本丸を不整形の二ノ丸が取り囲み、その南側に三ノ丸が付き、各曲輪は外堀（水堀）で囲われている。 藩の正史である『御記録』の記載から、新発田藩の初代藩主・溝口秀勝の入封に伴う慶長３（1598）年に築城が開始され、承応３（1654）年、三代藩主・宣直の「御寄付御書院御普請成就」の記述をもって城の完成とみられるが、幕府に提出した『正保城絵図』（「越後国新発田之城」図）を見れば、それ以前におおよそ完成していたことが知れる。以後、江戸時代を通じ、城郭破却まで溝口氏が居城した。 現存遺構は本丸の表門 ・ 旧二の丸隅櫓（国重文）、 本丸の石垣と堀の一部（市史跡） ・ 土橋門付近の土塁である。 また、平成16（2004）年には三階櫓と辰巳櫓を各資料（史料）に基づいて伝統的技術で復元した。				
石垣の面積	約1700 ㎡	石垣の総延長	約0.35 ㎞		
石垣の特徴	本丸の石垣は、市内（五十公野字古寺周辺）で産出される粗粒玄武岩（通称「古寺石」）を用いた切石の布積みが主体である。現存部分は延長約350mだが、かつては本丸北西側に腰巻石垣が存在していた。使用される築石は比較的小ぶりなものが多く、精加工された切石の布積みは切込接石垣の典型例といえる。また、隅角部の角石には、稜線を縁取る加工も認められる。なお、現存する本丸の石垣は、寛文８（1668）年の火災後の、寛文10年の修築に伴うものとみられ、現在の縄張りとなる。 また、発掘調査により裏門及び土橋の石垣が検出され、本丸部の築石よりも加工が粗く、一部割石も用いられている。				
近代以降の動向	明治4（1871）年の廃藩置県後、陸軍東京鎮台第一分営 新潟分営が一時駐留。明治5～7（1872～1874）年頃には、城地は軍用地や学校敷地への移管や払い下げを受け、城内の屋敷や櫓、門などの多くの建物が解体された。明治6（1873）年、本丸・二ノ丸の大半は、いわゆる「廃城令」で最終的に存城と決まり、陸軍省の管轄の軍用地となり、終戦までは歩兵第16連隊などが置かれた。 終戦直後は学校用地等となったが、昭和28年に本丸と二ノ丸北半は保安隊（後に陸上自衛隊）新発田駐屯地となり現在に至る。なお、この際に本丸の一部は市の管理地として引き継がれ、表門を中心とした公園整備が行われている。 平成12（2000）年、市と国との間で用地交換が行われ、新発田城址公園が整備される。 平成27（2015）年、二ノ丸南半が防災公園として整備される。				
維持管理の概要	新発田城址公園の維持管理は市直営（維持管理課）で実施し、表門・旧二の丸隅櫓（重文）、三階櫓・辰巳櫓（復元）も市直営（文化行政課）で管理している。 石垣の定期的な動態観測（定点観測）は、市が発注した業務委託により、年/３回（7月、11月、3月）実施し、市担当者と委託業者の双方で確認を行っている。なお、動態観測の直前には、市が発注した業務委託により石垣面の除草作業も実施している。地震などの突発的な災害が発生した場合は、市担当者が直接現地確認を行い、被害の有無を確認している。				

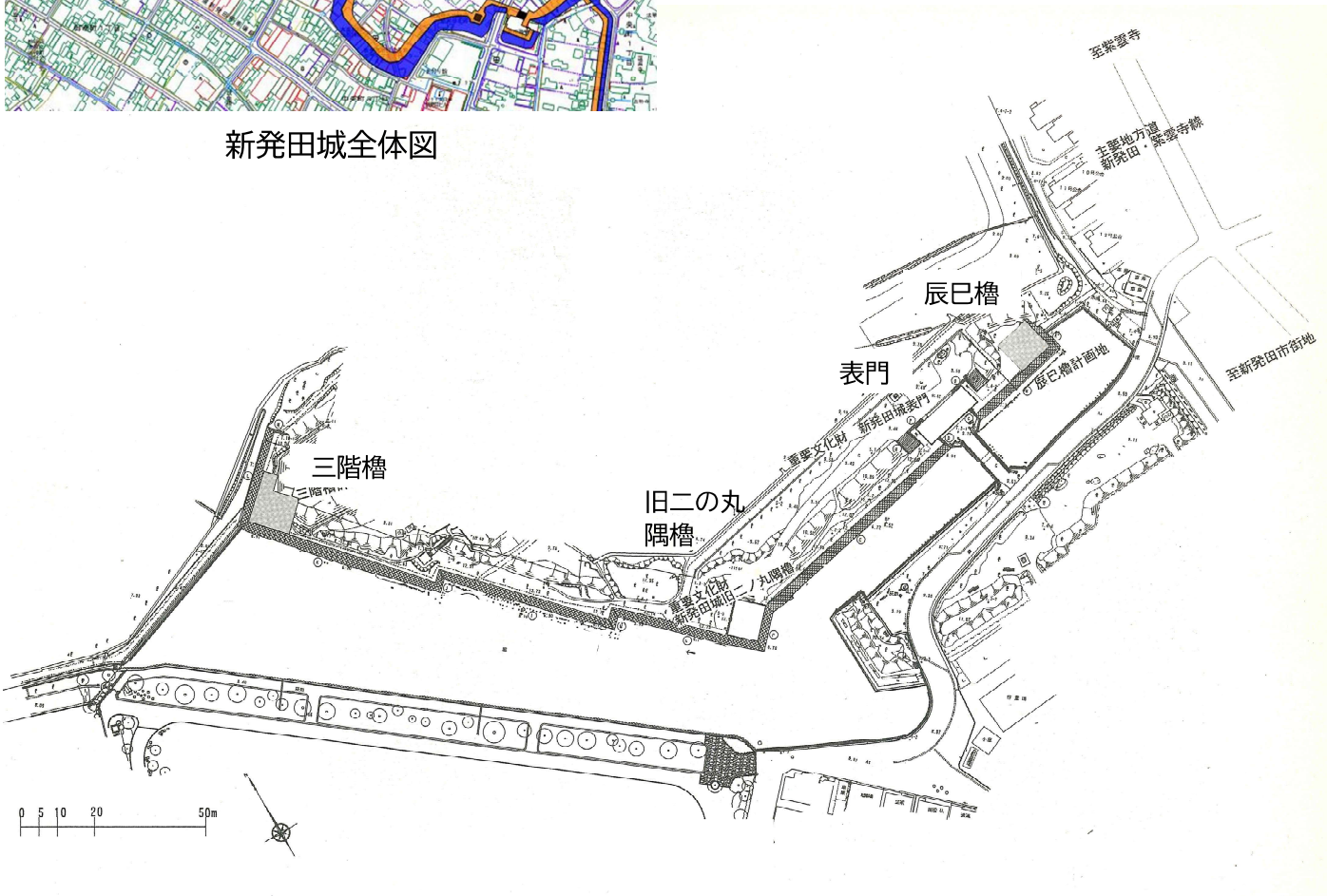
2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



新発田城全体図



旧二の丸隅櫓（南から）



新発田城　本丸の石垣範囲（市指定史跡）

参考文献	新発田市2004　『新発田城三階櫓・辰巳櫓復元工事及び石垣補強工事報告書』 新発田市教育委員会2016　『新発田城跡　発掘調査報告書XI』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☐ 昨成済　☐一部作成済 （作成率：約　%）　☐ 未作成 その他［現在作成中。］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☑ 一部作成済 （作成率：約36%）　☐未作成 その他［　］
作成担当部署	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☑ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☑ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[R8] 年　最終更新：［　］年
管理方法	☑ 紙台帳　☑ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☑ 随時　☐ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☑ 実施中　☐ 未実施（検討中） 未実施の理由　［　］
実施方法	☐ 自治体直営　☐ 委託　☑ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	

5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)

石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	☑ 公園施設の既存側溝　☐遺構に影響を与えない新設排水　☐復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☑一部取得済（36%）　☐未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☐ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	☑ 調査・研究　☑ 記録保存　☐経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）



オルソ画像（表門台（東側袖部）から辰巳櫓台南面）





オルソ画像（表門台石垣（西側袖部））





オルソ画像（表門台石垣（東側袖部））



オルソ画像（旧二の丸隅櫓台南面）

※現在、石垣カルテ作成中

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☑有 ☐無　計画名［新発田城石垣保護に係る土塁上樹木管理計画］　策定年度［H29］
実施主体	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端・法面・根石付近)	☐ 伐採・除去　☐ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［枯れた枝などに限定し、剪定（枝打ち）。］
植栽管理の実績・内容等(直近5年以内)	
植栽管理における課題(自由記述)	

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑石垣の変状（孕み、緩み等）　☐間詰石の抜け落ち　☑地形の変状（ひび、沈下等） ☑樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑危険木の観察　☐排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☑ 機器による動態観測（観測内容：トータルステーションによる定点観測） その他［　］
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐週1回程度　☐月1回程度　☑年数回の定期　☐災害後のみ　☐随時
点検の主体	☐ 整備部署　☑調査部署　☑管理部署　☐委託（指定管理等）　☐ボランティア・市民団体 その他［　］
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☑ある　☐ 無い ある場合の具体的内容：最大4.2㎝の変位量が認められる石垣面がある（測量誤差含む）
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☑ 行っている　☐ 今後行う予定　☐行っていない
変位確認後の対応スキーム(自由記述)	
日常点検における課題(自由記述)	

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［修補願図により、被災した石垣面が特定できる箇所もある。］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☐ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［近代以降とみられる修理箇所が存在するが、記録などは不明。］
修理履歴・記録の活用状況	☐ 今後の修理計画の検討に活用している ☑ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　］

1.城跡等の総括的事項

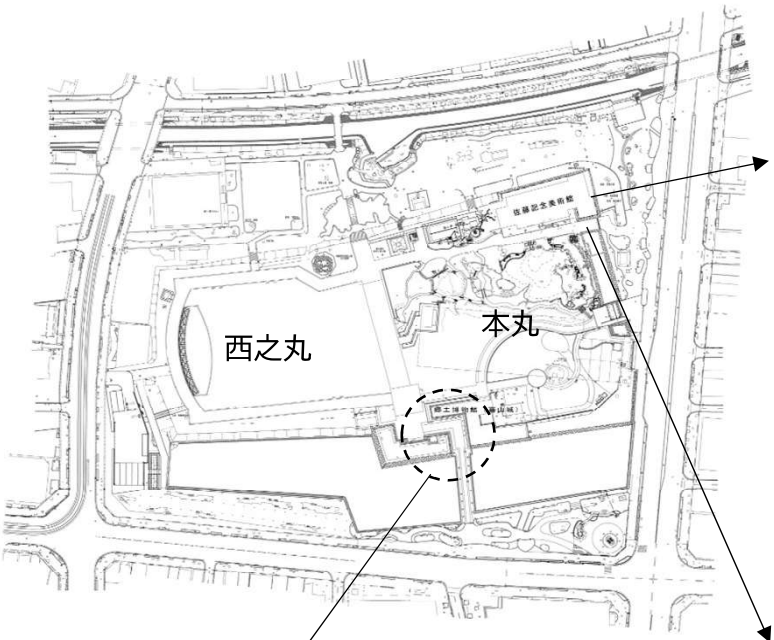
名称(遺跡名)	富山城跡	都道府県	富山県	市町村	富山市
文化財種別	埋蔵文化財包蔵地	指定年月日		指定面積	
その他の指定		その他の法規制	・都市計画法（風致地区、都市計画公園、都市計画駐車場）		
保存活用計画	☐有 ☑無	整備基本計画	☑有 ☐無	H11.3(全体) H20.3(歴史・文化ゾーン) H25 H30(松川周辺エリア)	
調査担当部署	富山市教育委員会埋蔵文化財センター	整備担当部署	富山市建設部公園緑地課		
管理担当部署	富山市建設部公園緑地課	指定管理者	富山城址公園パークマネジメント共同企業体		
委員会設置状況		その他計画			

城郭等の概要	富山城は、天文12年（1543）頃神保長職が築城したとされる。天正8年（1582）佐々成政の居城となるが、同13年に羽柴秀吉の越中征討で成政が降伏し、富山城は破却された。その後、慶長10年（1605）前田利長の隠居に際し近世城郭として整備された。この時に本丸の鉄門・搦手門、二ノ丸の二階櫓門の石垣が築かれた。同14年、城が大火で焼失し、利長は高岡城へ入った。寛永16年（1639）加賀藩から10万石が分与され、富山藩が成立。翌年、新城築城までの仮城として前田利次が富山城に入城。万治3年（1660）、利次は新城築城を断念し、富山城を藩主の居城と定めた。寛文元年（1661）幕府から許可を受け、城の改修を行った。この時に鉄門・搦手門石垣の積み直し、三ノ丸の大手門、西枡形門、東枡形門の石垣が築かれた（※二階櫓門石垣は解体済のため、積み直したか不明）。以後、この寛文期の構造が基礎となり、災害による修復を繰り返しながら今日に至る。 明治16年（1883）二ノ丸の二階櫓門石垣が解体された。昭和29年（1954）富山産業大博覧会の開催に合わせ、三重四階の模擬天守が建てられる際に鉄門東石垣の改修を行った。旧本丸の東南角の土塁にも模造石垣が新設された。平成20年（2008）千歳御門移築に伴い搦手南石垣の南側に模造石垣が新設された。

石垣の面積	1,800 ㎡	石垣の総延長	0.25 ㎞

石垣の特徴	慶長10年に築造された石垣は現存せず、寛文元年に積み直された布積の石垣が鉄門石垣通路面や搦手石垣の東面などに残る。近代以降にも大規模な積み直しが行われているが、石材の多くは慶長期に調査したものを再利用している。石材の約7割を占める花崗岩類は早月川から調達し、その他常願寺川の安山岩や氷見・高岡海岸部の砂岩等を用いている。鉄門石垣の通路面には、鏡石が5石配置されている。二ノ丸・三ノ丸石垣の地上部分は解体され現存しないが、道路下で一部の根石などを確認している。
近代以降の動向	明治４年（1871）廃藩置県が行われ、富山県が設置された。その後新川県となり、さらに石川県へと統合されたが、同16年に石川県から富山県が独立した。明治から昭和初期まで旧本丸には県庁、旧西の丸には監獄署や県会議事堂などの公の施設が設置された。二ノ丸や三ノ丸はほとんどが払い下げられた。その中で、明治11年石川県富山支庁が廃止されたのを受け、同15年有志が城址（旧本丸・西の丸）保存のため公園（富山公園）として整備した。同16年富山県独立にあたり旧本丸に県庁が再び置かれたため、同18年に富山公園は廃止された。 昭和5年（1930）県庁が火災により全焼し、再建先が神通川廃川地となったことで、県庁敷地としての役割を終えた。同8年都市計画風致地区に指定された。同14年城址は都市計画公園「富山公園」に指定され、翌年整備された。同20年富山大空襲で公園が全焼したが、同27年新たに都市計画公園「城址公園」が開設し、同31年に都市公園として開設告示。同29年城址公園で富山産業大博覧会が開催された。 その後、老朽化などに伴う城址公園の公園機能回復を目的に、平成17（2005）から整備を行い、その一環として同18・19年に鉄門西石垣、搦手門南石垣で石垣解体修理工事を実施した。
維持管理の概要	富山城址（城址公園）の維持管理は、供用開始以来、市の直営により実施されてきたが、令和３年度から指定管理者制度を導入し、「富山城址公園パークマネジメント共同企業体」が公園全体の維持管理業務を行っており、その中で石垣の除草業務や樹木の管理業務も行っている。 また、令和6年能登半島地震により沈下・変形の生じた鉄門西石垣において、市職員による天端築石の間隔測定及びクラックゲージの確認を行うとともに、市の発注した業務委託により、石垣の位置をトータルステーションで年3回測量し、変動の有無を確認している。

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）





搦手門北石垣東面の石垣



搦手門南石垣（平成の修理後）



鉄門西石垣（平成の修理後）



鉄門石垣通路面の鏡石群



富山城遠景（北西から）

参考文献	富山市教育委員会　2007　『富山城跡試掘確認調査報告書』 富山市教育委員会　2008　『富山城跡試掘確認調査報告書』 富山市教育委員会　2009　『富山城跡試掘確認調査報告書』 富山市教育委員会　2018　『富山城跡本丸石垣解体修理発掘調査報告書　附編－本丸・西ノ丸の工事立会－』

3. 石垣カルテの作成状況	
カルテの作成状況	☐ 昨成済　☐一部作成済 （作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☑ 一部作成済 （作成率：約　%）　☐未作成 その他［　］
作成担当部署	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☑ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☑ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：［　］年　最終更新：［　］年
管理方法	☐ 紙台帳　☐ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☐ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☐ 時間的不足 その他［　］
4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況	
予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☐ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　[予算や実施体制が整っていないため　]
実施方法	☐ 自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☑ 予算不足　☐ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	
5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)	
石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	☑ 公園施設の既存側溝　☐遺構に影響を与えない新設排水　☐復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］
6.3Dデータの取得・活用状況	
3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☑一部取得済（　%）　☐未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☐ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	☑ 調査・研究　☑ 記録保存　☑経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐有 ☑無　計画名［　　］　策定年度［　　］
実施主体	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針（天端・法面・根石付近）	☐ 伐採・除去　☐ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等（直近5年以内）	R7：景観や周辺環境の悪化を招く樹木の伐採
植栽管理における課題（自由記述）	体系的な植栽管理計画が未策定

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☐ 間詰石の抜け落ち　☐ 地形の変状（ひび、沈下等） ☐ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☐ 危険木の観察　☐ 排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☑ 機器による動態観測（観測内容：トータルステーションによる定期的な測量） その他［R6能登半島地震後、築石の間隔やクラック幅の変動を監視・R9に石垣天端に傾斜計の設置を予定］
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 週1回程度　☐ 月1回程度　☑ 年数回の定期　☐ 災害後のみ　☐ 随時
点検の主体	☐ 整備部署　☐ 調査部署　☑ 管理部署　☐ 委託（指定管理等）　☐ ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い ある場合の具体的内容：
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑ 行っていない
変位確認後の対応スキーム（自由記述）	一定方向の変位が連続した場合、有識者へ相談し、対策検討か監視継続かを判断する。
日常点検における課題（自由記述）	モニタリング費用の確保、異常発生を判断する閾値の適切な設定

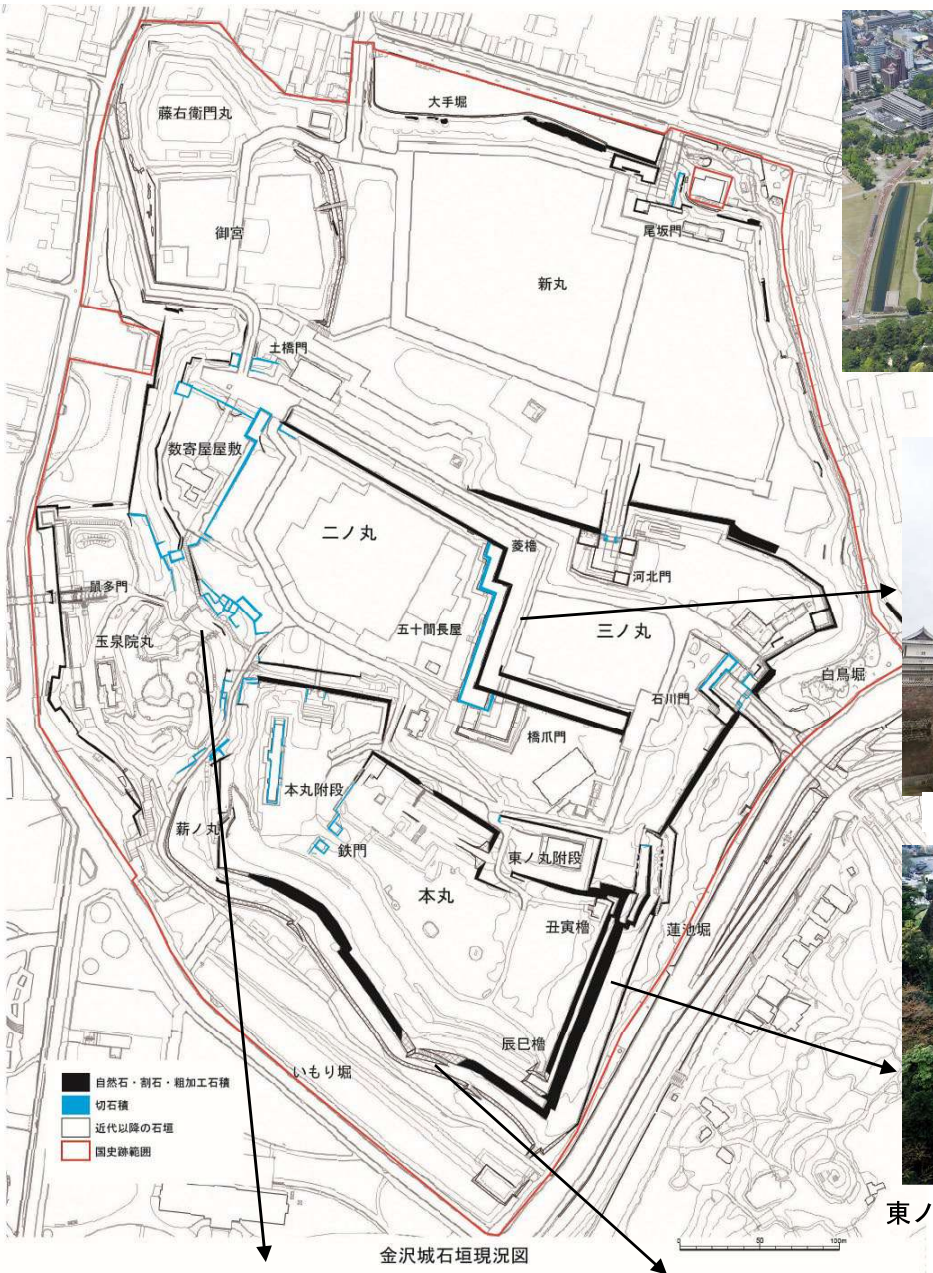
10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☑ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☑ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☐ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　　］
修理履歴・記録の活用状況	☐ 今後の修理計画の検討に活用している ☑ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　　］

1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	史跡金沢城跡	都道府県	石川県	市町村	金沢市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	平成20年6月17日	指定面積	275,155㎡
その他の指定	金沢城石川門、金沢城三十間長屋、金沢城土蔵（重要文化財） 「金沢の文化的景観　城下町の伝統と文化」（重要文化的景観	その他の法規制	都市計画公園「金沢城公園」、石川県都市公園条例「金沢城公園」、金沢市公園条例「外濠公園」、金沢市における美しい景観のまちづくりに関する条例「伝統環境保存区域」、金沢市における美しい眺望景観の形成に関する条例、夜間景観形成条例「夜間景観形成地区（歴史的景観保全区域）」、金沢市歴史的風致維持向上計画（重点区		
保存活用計画	☑ 有 ☐ 無　令和3年3月策定	整備基本計画	☐ 有 ☑ 無		
調査担当部署	石川県金沢城調査研究所	整備担当部署	石川県土木部公園緑地課		
管理担当部署	石川県金沢城・兼六園管理事務所 石川県教育委員会事務局文化財課、金沢市文化財保護課	指定管理者			
委員会設置状況	金沢城調査研究委員会（平成14～） 金沢城調査研究専門委員会（平成14～） 金沢城二の丸御殿復元整備専門委員会（令和2） 金沢城・兼六園の石垣復旧に関する専門家会議（令和6）	その他計画	金沢城跡保存管理計画（平成23） 金沢城復元整備計画（平成27） 石垣の保存管理及び保全対策に係る計画書（平成30） 金沢城址公園の樹木等の保全・植栽について（平成13）		
城郭等の概要	天正8年（1580）に佐久間盛政が城主となり、城郭整備に着手した。天正11年（1583）に前田利家が城主となり、文禄元年（1592）には本丸高石垣の築造を行い、以後城内の本格整備が進められ、寛永8年（1631）の大火後に現在の城の縄張りが定まった。宝暦9年（1759）に城内の主要施設を焼失したが、翌年から二ノ丸をはじめとした建物の再建・石垣の修復が始められた。文化5年（1808）に二ノ丸御殿が全焼したが、3年間で再建している。				
石垣の面積	約30,000 ㎡	石垣の総延長	7.01 ㎞		
石垣の特徴	金沢城内の石垣は技法や意匠の多様性に特色があり、自然石積・割石積・粗加工石積・切石積等の石積み様式は、場の性格や周囲との調和にも配慮し,城内整備の歴史と共に多彩な発展を遂げている。				
近代以降の動向	明治4年（1871）からは兵部省、翌5年からは陸軍省の管轄となり旧陸軍の兵舎等で利用されるが、不要な建物や石垣の取り壊し、堀の埋め立てなどが順次行われた。昭和24年（1949）には金沢大学が開学、平成7年（1995）の城外移転まで大学用地として利用された。移転後は石川県が土地を取得、菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓、内堀等の整備が進められ、平成13 年(2001)に都市公園「金沢城公園」開設した（第一期整備）。 平成20年（2008）6月17日付けで国史跡に指定された。平成27年には平成18年から進めていた金沢城三御門の復元整備・保存修理、玉泉院丸庭園の整備が完了（第二期整備）、引き続き令和3年度までを事業期間として、鶴の丸休憩所一体の再整備、鼠多門・鼠多門橋の復元整備、石垣の保全を柱とした整備計画を策定し完了した（第三期整備）。現在は城郭の中枢をなした二ノ丸御殿の復元整備と、令和6年能登半島地震によって被災した石垣の復旧作業を進めている。				
維持管理の概要	金沢城公園は平成13年に都市公園として開設され、日常管理は石川県金沢城・兼六園管理事務所が行っており、主に下記のとおり行っている。 ・除草等：石垣や天端の除草・樹木管理（年１～４回：業務委託） ・石垣の目視：間詰石の落下、大きな変状等（毎日：職員や業務委託している常駐警備員） ・動態観測：特に注視すべき箇所の機械計測等（年１回～常時：業務委託）				

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



金沢城石垣現況図



金沢城公園全景



菱櫓・五十間長屋（第一期整備）



東ノ丸東面石垣と丑寅櫓下石垣（文禄期）



玉泉院丸庭園に面した切石積石垣群





R6能登半島地震による石垣の被災状況と復旧作業（本丸南石垣）

参考文献	石川県2011『史跡金沢城跡保存管理計画書』 石川県2021『史跡金沢城跡保存活用計画書』 石川県2001『金沢城址公園の樹木等の保全・植栽について』 石川県2018『金沢城の石垣の保存管理及び保全対策に係る計画書』 石川県金沢城調査研究所2016.2022『金沢城跡石垣保存実態調査報告書Ⅰ』.『金沢城跡石垣保存実態調査報告書Ⅱ』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☑ 昨成済　☐ 一部作成済 （作成率：約　%）　☐ 未作成 その他［近代以降の石垣については簡易的に作成　　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☑ 一部作成済 （作成率：約80%）　☐ 未作成 その他［　　］
作成担当部署	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☑ 調査部署 その他［　　］
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☑ 専門職員と委託業者共同 その他［オルソ写真作成や３Ｄ計測は測量業者に委託　　］
作成年 / 更新年	初回：[　1996　] 年　最終更新：［　　］年
管理方法	☐ 紙台帳　☑ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☑ 数年に一回　☐ 随時　☐ 更新していない その他［更新は概ね10年を目安とするが、保存状態により優先順位を設けて更新を行う。　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☐ 時間的不足 その他［　　］

4. 文化財石垣耐震診断指針（案）に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☐ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　[既存の動態観測を実施しているため]
実施方法	☐ 自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☐ 時間的不足 その他［　　］
予備診断における課題（自由記述）	

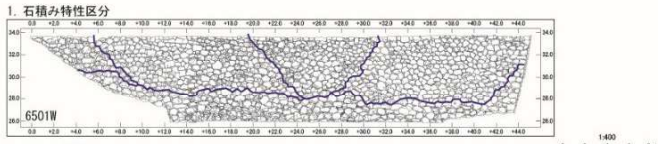
5. 降雨対策の実施状況（一部でも可、また今後の実施計画含む）

石垣構造内への遮水対策の内容（複数回答可）	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　　］
表面水の排水対策の内容（複数回答可）	☑ 公園施設の既存側溝　☐ 遺構に影響を与えない新設排水　☐ 復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　　］ その他［　　］

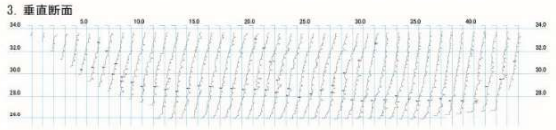
6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☑ 一部取得済（　%）　☐ 未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　　］
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☐ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　　］
3Dデータの主な活用目的（複数回答可）	☑ 調査・研究　☑ 記録保存　☑ 経年変化の差分解析等 ☑ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　　］

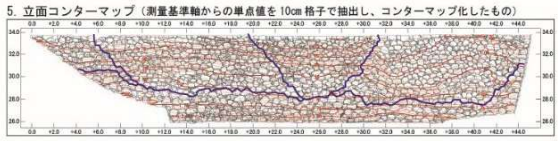
7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

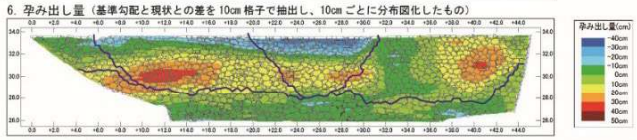


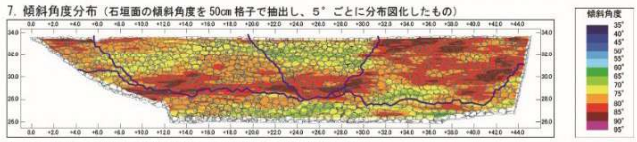


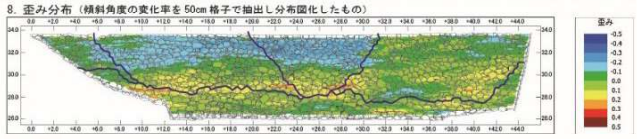


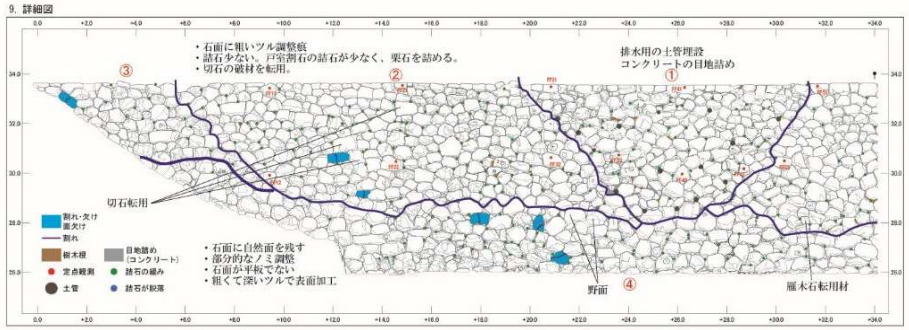


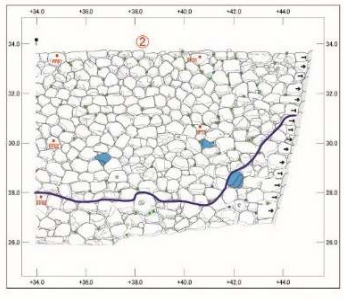













排水用土管と目地詰め（様相①）


石垣前面に緩衝地帯はなく、直近に建物などがある

『金沢城跡石垣保存実態調査報告書Ⅰ』より抜粋

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☑ 有 ☐ 無　　計画名［金沢城址公園の樹木等の保全・植栽について］　策定年度［ H13 ］
実施主体	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端･法面･根石付近)	☐ 伐採・除去　☑ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［
植栽管理の実績･内容等(直近5年以内)	石垣、石積みの除草、石垣天端の小径木の伐採（年1回～年4回）。枯損木の伐採や石垣復旧の支障になる樹木の伐採（適宜）。
植栽管理における課題(自由記述)	植栽管理については、市街地で貴重な緑地であることに配慮しつつ、石垣への影響が及ばないよう、危険木の伐採や枯枝処理は行っているものの、予算の都合や優先度の関係、樹木保全の意見など、修景のための樹木の整理や剪定等は進んでいない場所もある。

9.日常点検･実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☑ 間詰石の抜け落ち　☑地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑危険木の観察　☑排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☑ 機器による動態観測（観測内容：石垣の孕み、変形） その他［
日常点検の頻度	☑ 毎日　☐ 週1回程度　☐ 月1回程度　☐年数回の定期　☐災害後のみ　☐随時
点検の主体	☐ 整備部署　☐ 調査部署　☑ 管理部署　☐ 委託（指定管理等）　☐ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☑ ある　☐ 無い　　ある場合の具体的内容：H10から変動が累積傾向にあるなど安定的な状態を保っていない可能性が高い箇所において機械計測を実施。簡易計測で累積変位が20mm以上、月平均変位が1mm以上になると、変位速度が加速する傾向がいられること から、立入禁止や積み直し等の対策を検討する1つの目安としている。
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑行っていない
変位確認後の対応スキーム(自由記述)	石垣の動態観測により、孕みや変位を観測し、急激な変動が見られる場合には、応急対策の実施や石垣の解体も検討する。
日常点検における課題(自由記述)	他の業務との兼ね合いもあり、職員による点検業務が負担になっている。

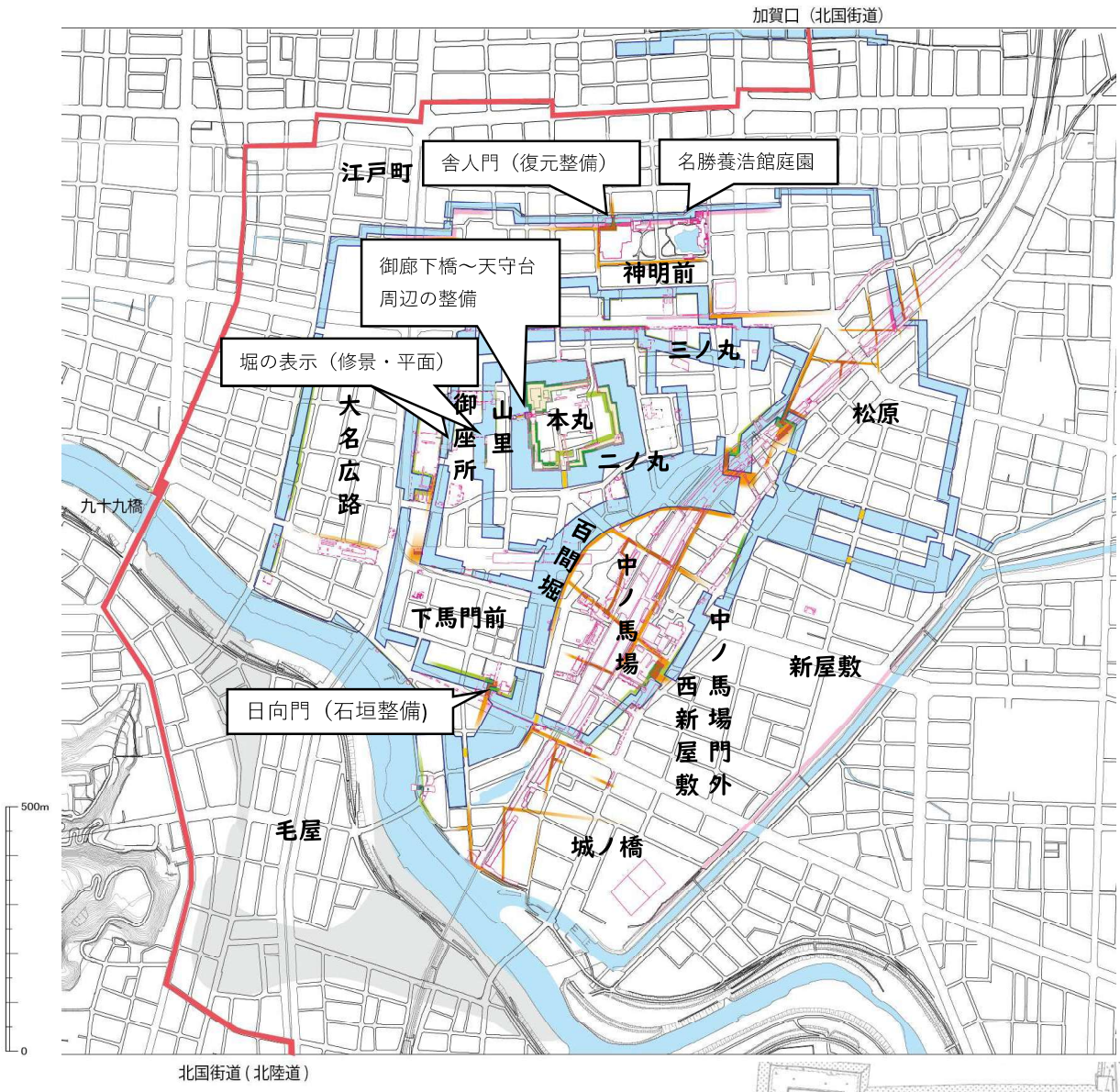
10. 石垣修理履歴･記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☑ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［上記の史資料は残されていないが、現地観察により修理履歴を把握　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☐ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［明治以降の修理箇所は把握しているが、記録資料は一部となる］
修理履歴･記録の活用状況	☑ 今後の修理計画の検討に活用している ☑ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　］

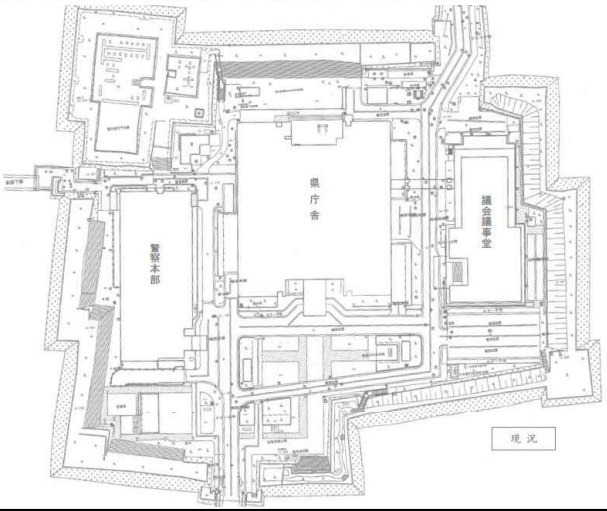
1.城跡等の総括的事項					
名称(遺跡名)	福井城跡	都道府県	福井県	市町村	福井市
文化財種別	埋蔵文化財包蔵地	指定年月日		指定面積	
その他の指定		その他の法規制			
保存活用計画	☐ 有 ☑ 無	整備基本計画	☐ 有 ☑ 無		
調査担当部署	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	整備担当部署	福井県未来創造部交通まちづくり課		
管理担当部署	福井県総務部財産活用課	指定管理者	無		
委員会設置状況	御廊下橋復元考証専門委員会（平成18～20年）、福井城址石垣保存調査委員会（平成21年度～）、福井城史料調査委員会（平成24・25年）、福井城山里口御門復元考証専門委員会（平成25～27年）、福井城址活用検討懇話会（令和2～4年）、福井城坤櫓等復元整備検討委員会（令和5年～）	その他計画	県都デザイン戦略　平成25年3月 未来を描こう、県民の城　令和4年3月		
城郭等の概要	天正3年（1575）柴田勝家により北庄城として築城・城下整備されたのが近世城郭としてのはじまりであり、天正11年（1583）の賤ヶ岳合戦後の落城以降も豊臣系大名の居城として存続した。その後、関ヶ原合戦を経て入城した結城秀康により、慶長6年（1601）からそれまでの北庄城縄張を大きく改変して整備され、秀康の亡くなる前年の慶長11年に一応の完成とされる。ただし、防備増強のための改変がなされたことが慶長18年（1613）と万治2年（1659）の城下絵図の比較から窺えるが、それ以後は城郭構造に大きな変更はない。 元和9年（1623）の松平忠直の豊後配流後、３代藩主に就任した松平忠昌により地名が北庄から福居庄へ変更され、城郭名称も北庄城から福井庄城・福居城となり、元禄14年（1701）に正式に「福井」に改称された。ただし、いわゆる福井城は、結城秀康の大整備以降の城郭を指している。				
石垣の面積	㎡	石垣の総延長	天守台等除き約0.7　㎞		
石垣の特徴	現存するのは本丸石垣のみであり、内部は枡形石垣や雁木など大半が撤去されている。外側も福井地震で崩壊して積み直された部分が多く、旧状を留めるのは北西側の天守台周辺や東側外面、南側の瓦門両側で、全体の半分程度である。石垣は築石・間詰石・裏込石に、近在する足羽山産出の凝灰岩である笏谷石が使用される。築石はやや不揃いで扁平気味な形状であり、間詰石は抜け落ちて隙間が目立つ箇所がある。また、天守台や瓦門付近等の石垣等は寛文大火(1669)後の修復で、正面を整美な矩形に整えた石材で整備されている。これまでの発掘調査により、築城時の石垣はおもに打込み接ぎの布積みで、部分的に切り込み接ぎや野面積みで構築されるが、寛文大火後の主要な城郭施設の石垣修復には整美な切石を利用するようになった。ただし、昭和の積み直し部分は間詰石のない切込み接ぎ風の布積みとなっており、その後各所で修景復元された石垣もそれに倣っている。				

近代以降の動向	M3（1870）福井藩、外堀を埋め立てて作付けすることを部分的に許可。M4（1871）兵部省管轄となる。徐々に堀が埋め立てられる。M6（1873）陸軍省管轄となる。M10（1877）建物の払い下げ・移転。M12（1879）藩士族へ貸与（耕地転用）。M23（1890）現状維持を条件に松平家へ払い下げられる。M26（1893）「松平試農場」創設。T8（1919）松平家、本丸跡地を県へ無償譲渡。T10（1921）「松平試農場」転出。T12（1923）本丸内に「県庁」「県議会議事堂」を新築移転。S20（1945）福井空襲。S23（1948）福井地震。本丸石垣一部倒壊。 S34（1959）加藤尚氏、松平家より本丸石垣・堀を購入し、堀の一部埋め立てを市へ申請するも却下される。 S35（1960）本丸内に「県警本部庁舎」を新築移転。S41（1966）「県議会議事堂」建替え。S54（1979）建て替え工事に先立つ石垣測量。S56（1981）「県庁舎」建替え。S57～５８（1982～83）倒壊した本丸石垣の積み直し。S63（1988）「県警本部庁舎」建替え。H元（1989）加藤尚氏没後、遺族が本丸石垣・堀を県へ寄進。H2～3（1990～91）本丸「福の井」をはじめとする天守台周辺の整備。H18（2006）本丸南東石垣上散策路整備。「福の井」再整備。H20（2008）「御廊下橋」復元整備。天守台周囲環境整備。H26～30（2014～18）「山里口御門」「福の井」修景整備。H28～30（2016～18）二ノ丸・三ノ丸堀（中央公園）整備。R5（2023）本丸巽櫓・月見（坤）櫓等復元整備準備開始。R7･8（2025・26）月見(坤)櫓跡発掘調査。 なお、平成21年度以前に、孕み出し変状の測量調査を７回、石垣各所の小規模修復工事を２回実施している。
維持管理の概要	平成21年度に石垣保存に向けた検討を行う「福井城址石垣保存調査委員会」を設置し、平成22年度から、孕み出し部分の定点観測、石垣の立面図作成、内部土砂や石の劣化度などのデータ収集を実施している。 平成27年度以降、３年毎の定点観測に加え、財産活用課職員による簡易計測、石垣の補修や樹木の剪定・伐採を実施している。令和２年度には石垣面ごとの危険度評価等をまとめた石垣カルテを作成した。令和３年度からは北面石垣の地上レーザ測量を毎年実施している。

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



外堀の内側および加賀口門周辺の堀を周知の埋蔵文化財包蔵地としており、毛屋や北国街道沿道については保護対象からはずれている。



参考文献	石橋晋一「福井城、昭和の大修理終わる!!」『福建』1983.11福井県建設技術協会、『御廊下橋復元整備事業報告書　福井城址御廊下橋復元 ～みんなで築こう、未来への懸け橋～』2009 福井県総務部財産活用課、『福井城山里口御門復元整備事業報告書』2019 福井県、御嶽貞義「事例報告　福井城跡」中井均･加藤理文編『近世城郭の考古学』2025高志書院 このほか、福井市教育委員会『福井城跡Ⅲ』1997や福井県教育庁埋蔵文化財調査センター『福井県埋蔵文化財報告第146集 福井城跡』2014をはじめ、すべての福井城跡の発掘調査報告書を参考とし、城郭復元図を作成している。

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☑ 作成済　☐ 一部作成済（作成率：約　%）　☐ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☑ 作成済　☐ 一部作成済（作成率：約　%）　☐ 未作成 その他［　］
作成担当部署	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☑ 民間委託業者　☐ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[　令和元　]：最終更新：［　　］年
管理方法	☐ 紙台帳　☑ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☑ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☐ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針（案）に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☐ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　[保存管理上の優先事項との調整を行っているため、現時点では未実施である。]
実施方法	☐ 自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☐ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	

5. 降雨対策の実施状況（一部でも可、また今後の実施計画含む）

石垣構造内への遮水対策の内容（複数回答可）	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容（複数回答可）	☐ 公園施設の既存側溝　☐ 遺構に影響を与えない新設排水　☐ 復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☑ 一部取得済（　%）　☐ 未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☐ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　フォトグラメトリ
3Dデータの主な活用目的（複数回答可）	☐ 調査・研究　☑ 記録保存　☐ 経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

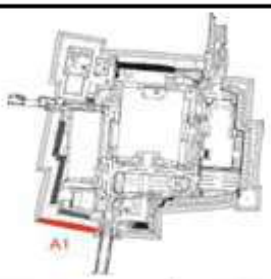
7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

福井城址 石垣カルテ様式

（表）

石垣番号	A1-1	地区	A1
石垣部位	坤櫓南面	方位	南面
立地面	平坦面	地盤	沖積層（河川堆積物）

位置図



延長		高さ		
天端	根基部	左	中央	右
52.60m	54.79m	10.00m	10.00m	10.10m

隅角部	平面形状	立面形状 勾配	立面形状 反り	石材加工技法	石材構成		石材寸法	石材形状・規格性
左	出角	66度	有（天端もどり長0.85m）	切石 打込接	算木積	角石（9個） 角脇石（9個）	1.70m×0.55m 0.80m×0.50m	有
右	—	-	-	— —	-	-	-	—

加工痕跡等（表面加工・刻印・転用石・建物跡等）
坤櫓跡（天端石）、表面ハツリ加工

石質（岩石の種類・特徴・産地等）
笏谷石（火山礫凝灰岩、青灰色、福井県足羽山周辺）

単石～平石～部	平面形状	立面形状 勾配	立面形状 反り	立面形状 気負い	石材加工技法	石積み技法	石材構成	石材寸法	石材形状・規格性
	直線	64度	有 （天端もどり長0.85m）	無	切石 打込接	布積み	間詰石（量：少、加工技法：ハツリ）	0.85m×0.45m	有

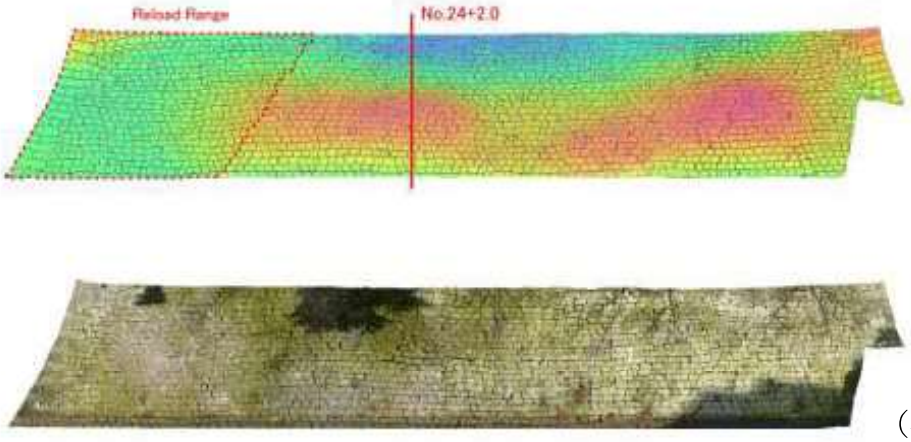
加工痕跡等（表面加工・刻印・転用石・建物跡等）
表面ハツリ加工、刻印2個

石質（岩石の種類・特徴・産地等）
笏谷石（火山礫凝灰岩、青灰色、福井県足羽山周辺）

破損状況		緩み	孕み	崩れ	抜け落ち	崩れ	樹木	天端の沈下	その他	変形の計測	有・無	危険度		
隅角部	天端	無	無	無	無	無	無	無	無	観測年・状況		崩落等の可能性		a2
	中部	無	無	角脇石1個	無	無	無	—	無			周辺の利用形態から見た危険性		b1
	根基部	無	無	無	無	無	無	—	無					
単石～平石～部	天端	若干有り	無	無	無	無	マツ	若干有り	倒れ込み			危険度	1次	B2
	中部	有	有	2個	無	無	無	—	無					
	根基部	若干有り	有	3個	無	無	無	—	無				最終	

古絵図・古文書等	「御門御櫓之部」「御城下之図 貞享二年」「福岡御城下絵図 貞享二年」「御城下之絵図 正徳四年」「御城下絵図 安永四年」「福井分間之図 中村清勝 文化八年」『福井城普請』他古写真		
既往の発掘調査・研究等			
上物建造物	【1601年～1606年頃】坤櫓（二層） → 【江戸時代中期】再建坤櫓（三層） → 【明治期以降】無し 櫓		
築造時期	【1601年～1606年頃】	改修時期	昭和57年（1982）積み直し　※ 下図に「Reload Range」として図示。
分類		編年	

見取図・写真



（石垣カルテ　抜粋）

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針（天端・法面・根石付近）	☑ 伐採・除去　☐ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等（直近5年以内）	R8:ソメイヨシノ、クロマツ、ラクウショウ等の剪定、伐採等（予定）　R4～R7も毎年ソメイヨシノ、クロマツ、カエデ、エノキ、ラクウショウ等の剪定、伐採を実施
植栽管理における課題（自由記述）	

9.日常点検・実施体制

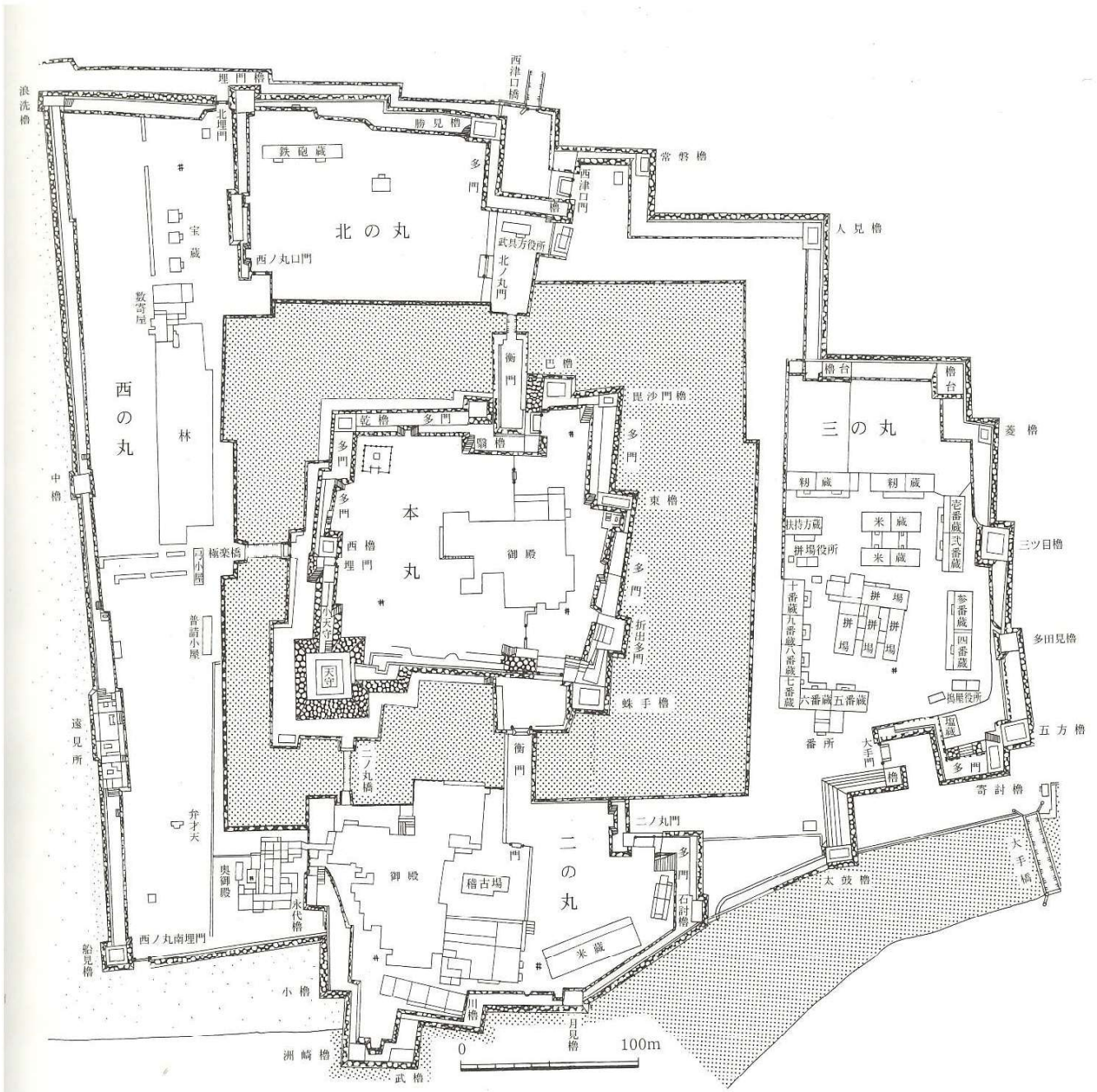
日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☐ 間詰石の抜け落ち　☐地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☐危険木の観察　☐排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 機器による動態観測（観測内容：　　） その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 週1回程度　☐ 月1回程度　☐年数回の定期　☐災害後のみ　☑随時
点検の主体	☐ 整備部署　☐ 調査部署　☑ 管理部署　☐ 委託（指定管理等）　☐ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い　／　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑ 行っていない
変位確認後の対応スキーム（自由記述）	
日常点検における課題（自由記述）	

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［いくつかの史資料が残されているが、いずれの部署も把握していない。］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☑ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　　］
修理履歴・記録の活用状況	☐ 今後の修理計画の検討に活用している ☐ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☑ 具体的な活用はしていない その他　［　　］

1.城跡等の総括的事項					
名称(遺跡名)	小浜城跡	都道府県	福井県	市町村	小浜市
文化財種別	福井県指定史跡	指定年月日	昭和31年3月12日	指定面積	
その他の指定		その他の法規制			
保存活用計画	☐ 有 ☑ 無	整備基本計画	☐ 有 ☑ 無		
調査担当部署	小浜城跡発掘調査団・小浜市教育委員会・福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	整備担当部署			
管理担当部署		指定管理者			
委員会設置状況		その他計画			
城郭等の概要	慶長5年（1600）若狭国主となった京極高次は旧来の後瀬山城を廃し、翌慶長6年（1601）北川と南川の河口部分に存在した竹原集落を移動させ、城郭の建設を開始した。城郭は南北を河川とそれを利用した外堀で囲み、西は小浜湾に面し、東は湿地により防御する形態で、自然地形を巧みに利用した水城といえる。京極氏の出雲移封のあと若狭国主となった酒井忠勝は、幕府の許可を得て石垣・塀・櫓門の補修を行った。この時に縄張りは大幅に変更されている。寛永13年（1636）には天主閣造立諸櫓・石垣の築き直しなどが行われ、寛永19年に百間橋の虎口・升型（大手口）の造営によって小浜城跡は一応の完成をみている。				
石垣の面積	㎡	石垣の総延長	㎞		
石垣の特徴	隅部分は大型の花崗岩石材を用いて算木積みを呈する。構築方法は横目地を意識し、間詰石を多用して構築している。基礎工事として胴木を用いている。裏込石の状況や基礎構築については不明である。その他の部分は野面積みに近い。刻印のある石材や打ち込み接ぎの痕跡を残す石材が確認されている。若狭湾（蘇洞門）の石材を使用している。				
近代以降の動向	明治3年より町民の城内通行が許可され、楼門・櫓の破壊願書が出される。明治4年には大阪鎮台第一分営を二の丸に建築中に出火し天守を除く大半が焼失した。明治5年には城内通行の便宜のため本丸東側石垣が破壊された。明治6年の廃城令を受け翌年に天守は解体された。堀も埋められ城としての機能は失われている。				
維持管理の概要	現在本丸部分には多くの樹木が繁茂しておりそのいくつかは高木化している。そのため石垣や近隣に悪影響を与える可能性のある樹木は剪定や伐採を行っている。また、石垣に繁茂する草については届く範囲の除草作業を行っている。				

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



第10図　江戸時代後期小浜城図

参考文献	1984『若狭小浜城跡―小浜城跡発掘調査報告書―』小浜城蒼発掘調査団 2002『若狭小浜城跡Ⅱ―公共下水道工事に伴う発掘調査報告書―」小浜市教育委員会 2025『小浜城跡―一般国道162号線道路改良事業に伴う調査―』福井県庁埋蔵文化財調査センター

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☐ 昨成済　☐ 一部作成済 （作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☐ 一部作成済 （作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［　］
作成担当部署	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☐ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：［　］年　最終更新：［　］年
管理方法	☐ 紙台帳　☐ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☐ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☑ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針（案）に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☐ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　［　］
実施方法	☐ 自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☑ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	

5. 降雨対策の実施状況（一部でも可、また今後の実施計画含む）

石垣構造内への遮水対策の内容（複数回答可）	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容（複数回答可）	☐ 公園施設の既存側溝　☐ 遺構に影響を与えない新設排水　☐ 復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☐ 一部取得済（　%）　☐ 未取得（計画中）　☑ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☐ 地上型3Dレーザースキャン　☐ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的（複数回答可）	☐ 調査・研究　☐ 記録保存　☐ 経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［土地所有者（宗教法人小浜神社）
石垣及び周辺樹木への対応方針（天端・法面・根石付近）	☑ 伐採・除去　☑ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等（直近5年以内）	天守台周辺の樹木を令和７年度実施
植栽管理における課題（自由記述）	など）による樹木が強風等により民家側へ倒れることを懸念している。

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☑ 間詰石の抜け落ち　☑地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑危険木の観察　☑排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 機器による動態観測（観測内容：　　） その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 週1回程度　☐ 月1回程度　☑年数回の定期　☐災害後のみ　☐随時
点検の主体	☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 管理部署　☐ 委託（指定管理等）　☐ボランティア・市民団体 その他［　　］

石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い	ある場合の具体的内容 石垣の孕み
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑ 行っていない	
変位確認後の対応スキーム（自由記述）		
日常点検における課題（自由記述）		

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☑ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☑ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☐ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　　］
修理履歴・記録の活用状況	☐ 今後の修理計画の検討に活用している ☑ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　　］

1.城跡等の総括的事項

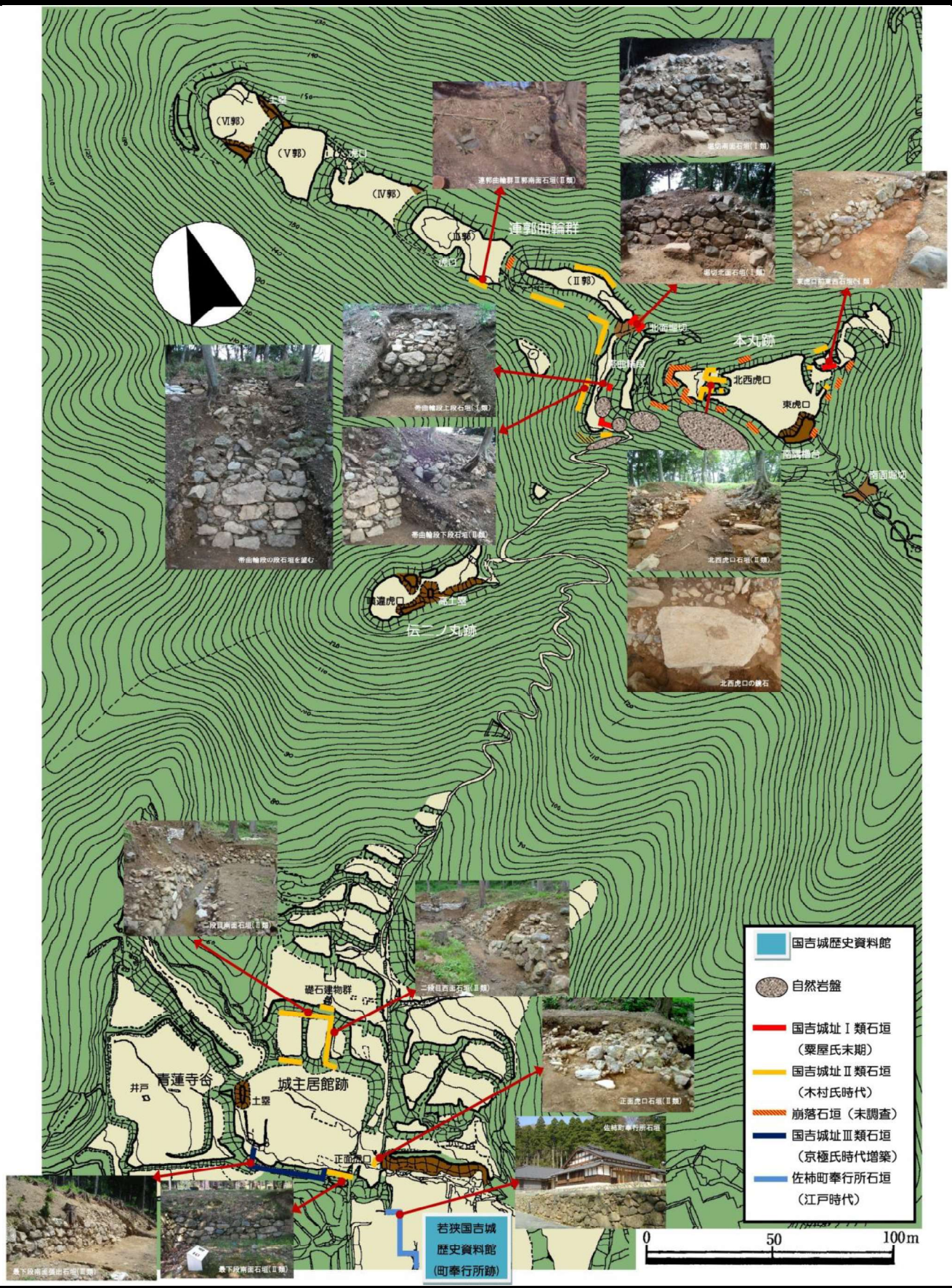
名称(遺跡名)	国吉城址	都道府県	福井県	市町村	美浜町
文化財種別	町指定史跡	指定年月日	昭和58年4月1日	指定面積	56,052㎡
その他の指定		その他の法規制			
保存活用計画	☐ 有 ☑ 無	整備基本計画	☐ 有 ☑ 無		
調査担当部署	美浜町教育委員会事務局生涯学習推進課 若狭国吉城歴史資料館	整備担当部署	美浜町教育委員会事務局生涯学習推進課 若狭国吉城歴史資料館		
管理担当部署	美浜町教育委員会事務局生涯学習推進課 若狭国吉城歴史資料館	指定管理者			
委員会設置状況	国吉城址史跡公園等環境整備検討委員会（平成14年～）	その他計画	国吉城址史跡公園等環境整備計画		

城郭等の概要	弘治2年(1556)、若狭国守護武田氏の重臣、粟屋越中守勝久が古城を改修して築城したと伝わる。 永禄6年(1563)から約10年の間、越前朝倉氏の侵攻を受けも悉く撃退し、元亀元年(1570)4月23日、織田信長勢を受け入れて越前侵攻の本陣となった。以降、織田配下丹羽長秀に与する（若狭衆）。 天正10年(1582)、本能寺の変以後は羽柴秀吉陣営に与し、翌年の賤ケ岳の合戦後、秀吉配下の木村常陸介定光が城主となり、城と城下を整備する。堀尾吉晴を経て、若狭一国を領する丹羽、浅野、木下、京極氏の時代にあっては、若越国境を守備する境目の城として重臣を配した。 寛永11年(1634)、小浜藩主となった徳川譜代の酒井忠勝は、その翌年に佐柿町奉行所を城の南に新築した。

石垣の面積	ー　㎡	石垣の総延長	ー　㎞

石垣の特徴	国吉城址の石垣は、その特徴から概ね3種に分類できる。 Ⅰ類：人頭大の不定形石材を用いた野面積みの石垣で、自然岩盤を取り込み、転用石を含む。裏込石量が少ない。山城主郭部の一部にみられる。天正10年10月、当時の若狭国を治めた丹羽長秀が粟屋勝久ら城持ちの若狭国衆に宛てて城の修築を急がせる文書が残り、対越前柴田氏への備えの強化として同時期に築かれたとみられる。 Ⅱ類：人頭大の横長石を用いた野面積みの石垣で、築石の広い(長い)面を表に置くため、奥行は短い。横目地が通り、転用石を含む。裏込石量は少ない。山上主郭部から山麓城主居館部まで広く認められる事から、唯一の大名城主であった木村氏により、豊臣政権下の領国統治の拠点城郭として総石垣化されたものとみられる。 Ⅲ期：人体大の石材を用い、奥行が長く、隅部は切石を用いた算木積みとなり、高く築かれる。裏込石量は多い。城主居館跡南面の石垣拡張部に限定される。小浜城と同笵の軒丸瓦片が出土しており、石垣上には瓦葺建物が建てらてたとみられる。 なお、出土石垣は山上部も山麓部も一様に上半分を崩して下半分が埋められており、破城の状況を示すものと考えられる。結果、国吉城石垣の現存部分は、概ね下層部に限られる様相である。また、酒井氏が築いた佐柿町奉行所石垣は、城主居館跡Ⅲ類石垣の築石の一部を転用したとみられる。
近代以降の動向	大正6年(1917)、福井県史蹟勝地調査で国吉城址の調査が行われ、翌年、本丸跡に城址碑を設置。 昭和58年(1983)、町の史跡に指定される。 平成8年(1996)、文化財の保存・活用に関する専門委員会が設置され、国吉城址史跡整備が提言される。 平成12年（2000）、史跡整備に伴う第1次調査開始（～22次、2022）。 平成21年（2009）、若狭国吉城歴史資料館開館。 平成30年（2018）、若狭国吉城歴史資料館木造棟（旧田辺半太夫家住宅）が国登録有形文化財に登録される。
維持管理の概要	公園整備に伴い整備した城山遊歩道や説明板、遺構表示板、ライトアップ機材、幟旗等の維持管理、修繕等は、若狭国吉城歴史資料館で行っている。城跡内の日常的な草刈りや雑木整理、整枝業務は、地元地域の住民で組織する一般社団法人への民間委託で対応している。石垣遺構に影響を与える可能性のある立木の伐採や、倒木処理など規模の大きい作業（一般社団法人に対応不可なもの等）は、地元の森林組合等に委託業務を発注する場合もある。このほか、城跡内を随時パトロールを行い、景観保全及び修繕、遺構保護措置は必要に応じて対処している。

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



参考文献	福井県美浜町教育委員会　2003　『国吉城址史跡公園等環境整備計画』 美浜町教育委員会　2011　『国吉城址史跡調査報告書Ⅰ－国吉城址史跡調査及び公園整備事業に伴う粟屋勝久居館跡中央谷確認調査－』 若狭国吉城歴史資料館　2017　『国吉城址の石垣』

3. 石垣カルテの作成状況	
カルテの作成状況	□ 昨成済　□ 一部作成済 （作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	□ 昨成済　□ 一部作成済 （作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［　］
作成担当部署	□ 管理部署　□ 整備部署　□ 調査部署 その他［　］
実施主体	□ 自治体職員　□ 民間委託業者　□ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[　] 年　最終更新：［　] 年
管理方法	□ 紙台帳　□ Excel・Word等　□ GIS　□ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	□ 毎年　□ 数年に一回　□ 随時　□ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☑ 予算不足　□ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
4. 文化財石垣耐震診断指針（案）に基づく予備診断の実施状況	
予備診断の実施状況	□ 実施済　□ 一部実施済　□ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　［　］
実施方法	□ 自治体直営　□ 委託　□ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	□ 予算不足　□ 専門職員不足　□ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	
5. 降雨対策の実施状況（一部でも可、また今後の実施計画含む）	
石垣構造内への遮水対策の内容（複数回答可）	□ 植栽による遮水　□ 不透水層の設置　□ 遮水シートの埋設　□ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容（複数回答可）	□ 公園施設の既存側溝　□ 遺構に影響を与えない新設排水　□ 復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］
6.3Dデータの取得・活用状況	
3Dデータの取得状況	□ 全面的に取得済　□ 一部取得済（　%）　□ 未取得（計画中）　☑ 予定なし その他［国吉城址（城山）全体の航空レーザー測量及び赤色立体地図化は実施。
主な計測手法（複数回答可）	□ 地上型3Dレーザースキャン　□ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☑ 航空レーザー測量　□ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的（複数回答可）	☑ 調査・研究　□ 記録保存　□ 経年変化の差分解析等 ☑ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

該当資料なし

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	□ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☑ 管理部署　□ 整備部署　□ 調査部署　□ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針（天端・法面・根石付近）	□ 伐採・除去　☑ 景観に配慮し、限定的伐採　□ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等（直近5年以内）	山城主郭部の曲輪法面の高木、残存石垣に根が絡む木々の整理及び伐採、枝打ちによる軽量化などを実施。
植栽管理における課題（自由記述）	

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	□ 石垣の変状（孕み、緩み等）　□ 間詰石の抜け落ち　□地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑危険木の観察　□排水機能の状況 その他［	
日常点検の手法	☑ 目視　□ 機器による動態観測（観測内容： その他［	
日常点検の頻度	□ 毎日　□ 週1回程度　☑ 月1回程度　□年数回の定期　□災害後のみ　□随時	
点検の主体	□ 整備部署　□ 調査部署　☑ 管理部署　☑ 委託（指定管理等）　□ボランティア・市民団体 その他［	
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	□ ある　☑ 無い	ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	□ 行っている　□ 今後行う予定　☑ 行っていない	
変位確認後の対応スキーム（自由記述）		
日常点検における課題（自由記述）		

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	□ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている □ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［江戸前期に廃城。隣接の佐柿町奉行所石垣の修理履歴は資料未発見のため不明。］
近現代の修理記録の把握度	□ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） □ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 □ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［佐柿町奉行所石垣は資料未確認のため修理履歴不明ながら、築石が異なる修理痕跡あり。］
修理履歴・記録の活用状況	□ 今後の修理計画の検討に活用している □ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している □ 具体的な活用はしていない その他　［修理履歴に関する資料調査をいずれ実施。　　］